

弥彦山

2025. 12. 10

弥彦山に行ったことがある。登ったと言いたいところだが、一度目は車で、二度目はロープウェイを使ったため、登ったという感覚はない。

最初に行ったのは、数年前になる。なぜ、新潟の弥彦山を目指したのかは忘れてしまった。どこに行くかと検討しているうちに、たまには新潟に行くかとなったように思う。新潟は、お隣の県なのだが、高速を使っても意外と時間がかかる。

その日は、秋だった。お天気がよく、風もなかった。弥彦神社にお参りをした。ロープウェイもあるのだが、車でも行けることがわかり、車で登ることにした。駐車場に車を止め、展望レストランを目指した。そこが一番高い所だった。

レストランの屋上に着いた。驚いた。眼前には、越後平野と日本海とが一度に見渡せる。よく見ると佐渡島も見える。絶景である。越後平野には、田んぼがきれいに並んでいる。さすがは米どころ新潟である。日本海はというと、波が穏やかである。弥彦山は、自然がつくり出した天然の展望台だった。

どこに行っても、景色に感動することなどまずない。自然の造形に心を動かされることが少ない。ところが、弥彦山は違った。心を動かされた。ずっと眺めていたい。また来たい。そう思うことができた。

もう一度、弥彦山に行きたいと思いながら、時が経ってしまった。いつでもいいわけではない。あまりにも一度目がよかったため、お天気がよく、風もない日を選ばなくてはならない。最初の印象を下回ることは避けた。せつかくの弥彦山のイメージが変わってしまう。

二度目も秋だった。紅葉真っ盛りのタイミングは逃したが、十分にその名残はあった。まずは、弥彦神社にお参りである。あまりの人の多さに驚かされた。まるで、初詣のようである。今度は、ロープウェイを使うことにした。ところが、乗るまでにだいぶ時間がかかってしまった。ようやく乗ることができた。ガイドさんがいた。ベテランの女性である。これがすばらしかった。名調子である。降りるときには、拍手が起こったほどだった。

けっこうな時間を要したが、展望レストランの屋上までたどり着いた。期待はしていたが、それを裏切ることはなかった。越後平野に日本海、そして佐渡島は、変わらずに迎えてくれた。秋の田んぼも実に綺麗だった。お天気がよく、風もないコンディションも前回同様だった。

帰りもロープウェイに乗った。係の女性の案内にしたがって乗り込んだ。ロープウェイが動き出した。すると、その女性は、ロープウェイの乗り口すなわちお客さんたちに一礼した。そして、ロープウェイが動き出すと、進行方向へまた一礼した。行きのガイドさんといい、帰りの係の方のお辞儀といい、ある種のメンタリティを感じた。気分がいいまま、弥彦山を後にすることができた。

おかげで、ますます弥彦山が好きになった。何年かしたら、また行ってみようと思う。きっと、あの女性の皆さんのメンタリティは変わらないことだろう。